

博士論文公聴会

Environmental and seasonal dynamics altering the primary productivity in Bingo-Nada of the Seto Inland Sea, Japan

瀬戸内海備後灘の基礎生産性を左右する環境的・季節的動態に関する研究

演者：小原 静夏（生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻）

日時：2020年 **2月3日（月）13:00～**（1時間程度）

場所：生物生産学部 C315講義室

植物プランクトン



海の生物生産は数十～数百マイクロほどのほど小さな生き物である植物プランクトンの光合成による生産に支えられている。彼らの光合成による生産を基礎生産と呼び、これは海域の生物生産の指標である。

また近年、瀬戸内海では漁獲量の低下や養殖ノリの色落ちなど、水産業に深刻な問題を抱えており、海を豊かにする方策が求められている。

本研究では、備後灘（広島県福山市の沖）において海洋環境と基礎生産を4年間調査し、それらの環境的・季節的变化から水産業が抱える問題の要因を探るとともに、海を豊かにする方策の一つの効果を検証した。

お問い合わせ先：

小池 一彦（内線 7996）

E-mail: kazkoike@hiroshima-u.ac.jp

※本公聴会は、生物圏科学研究科の共同セミナーとなります。

